

## 部局長と学生との懇談会

(1) 文学部

(2) 2017年11月16日(木) 12:10-12:50 法経学部第1会議室

(3) 出席者

<学生>

行動科学コース2名、歴史学コース3名、日本ユーラシアコース2名、国際言語文化学コース6名

<教員>

学部長、教務委員長、学生委員長、留学生委員長、各コース長、各コース学生委員、各コース教務委員

傍聴者

学長、理事(教育・国際担当)、教育企画課長、教育企画課副課長、教育企画課主任

司会

教務委員長

(4) 懇談会の概要

司会 今回のテーマは英語教育である。コースごとに意見を聞いていく。

★学生からの発言

行動科学コース

2年生

学部が英語力に関して学生にたいしてどのようなことを求めているのかということを知った。

専門領域における英語教育の授業は明らかに少ない。

なにを求められているのかわからない。

イングリッシュ・ハウスは募集期間が短いなどの理由で利用しづらい。

3年生

認知情報学基礎演習は英語の教材を使ってプレゼンテーションをする授業であるが、教員からのフィードバックが少なく、この授業を受けたからといって英語によるプレゼンテーションができるようになることはない。そういうことを教えるのが学部の方針であるのならば、そういう指導ができる教員をつけてほしい。

歴史学コース

2年生

2年全体の意見を集約した。

普遍教育の英語に関して、RWLS の 4 技能のうち授業を受けて本当に勉強したという実感があるのは RW のみで、LS はきちんとやることを求められているようには感じられず、実力がつくのかわからなかった。

普遍教育の授業で求められている英語力のレベルは低かった。

### 3 年生

R の力は国際言語文化学コースの授業をとって鍛えられた。

自分は専門の研究で文献が読める能力が必要と考え R の力を重視したが、学生本人が求める技能がしばれていれば学部、大学の英語教育にたいする不満は少ないと思うが、そのように考えるのは少数派であるように思える。

学部の英語教育の現状に関しては、真剣に英語を学ぼうという姿勢が学生の側にあまりなく、高校レベルの文法の知識が身につけていない場合が多く、そういう学生が要求ばかり言ってもしかたがないと思う。

### 3 年生

英語教育と言うとき、授業の枠内でしかとらえられておらず、大学で日常的に英語を使うという方向になっていないことに不満を感じる。

## 日本・ユーラシア文化コース

### 3 年生

学年全体に要望を募ったところ意見は寄せられなかった。

自分の見るところ、英語の授業は普遍教育のみ受けており、専門の授業で英語を使うものがあるとそれがハードルとなってやめてしまうという状況がある。

普遍教育では、抽選によってクラスが決まるので、4 技能を自分の希望どおり選ぶことができない。

論文を読む能力は普遍ではつかないが、あえて専門で英語をやろうとは思わない。国際交流論の授業をとっても、英語ネイティブの学生のほうがこちらにあわせてくれるので、コミュニケーションを身につけることができないでいる。

英語だけで能力を伸ばすことはできないので、日本語の能力も同時に伸ばさなければならぬ。

### 1 年生

学年全体に意見を聞いたところ、普通の TOEFL スコアによる単位認定の評価基準がどうなっているのかわからない。

## 国際言語文化学コース

### 2 年生

国債の授業では英書講読、論文作成の授業があり読み書きの力はきたえられるが、プレゼンテーション能力を鍛える授業が少ない。

普遍教育では TOEFL のスコアでクラス分けをしたほうがいいと思う。

## 2 年生

学部では 1 年のときにとれる英語の授業が少ない。普遍教育によって補えると思ったが、履修学生の学力レベルが均一でなく、授業のレベルもあっていなくて、効果がなかった。2 年になって専門の英語を受けると、とくに S の授業でレベルの差についていけなかった。S の能力を磨く授業をもっと増やしてほしい。

## 2 年生

授業が RW に偏っている。

大学生は主体的に勉強をするものであるから、どんなこともすべて教えてほしいとは思わないが、学生のやる気を刺激するようなことをしてほしい。

## 3 年生

文学部だけの授業では 4 技能すべてをカバーすることはできないが、普遍を含めれば 4 技能を身につけることができる。BBC のニュースをひたすら書きとめる授業などがあり、大変役に立ったが、どの授業でどういうことをやっているのかがよくはわからず、TOEFL を受けると 4 技能すべての能力が必要とされるので、すべてをカバーする授業をやってほしい。

## 1 年生

現在までほぼ普遍教育の英語しかとっていない。受けている授業の内容は工夫されているが、学生の学力レベルのばらつきによって学習のモチベーションが下がってしまうようなことが感じられた。

普遍教育のクラス選択が、抽選制と 2 つの授業セットでの受講というシステムのため、4 技能を選ぶ希望がかなわず、意欲低下につながっている。

## ★教員側からの発言

歴史学コース

保坂教授

日本人の英語による議論の能力の低さは、多くの場合、英語知識の欠如というハード面の問題というよりも、状況を考えて遠慮してしまうという心理的な弱さに起因するので、心を鍛えなければならない。

司会者

寄せられた意見にたいして、フィードバックを行なうなど、慎重に対処する。

学部長

今日の出席者のなかから学生参画会議への参加をお願いする。

■日程：12 / 18 (月) 14 : 30 - 16 : 00

■場所：アカデミックリンクセンター プレゼンテーションスペース

**(5) 特定テーマ以外で学生より要望等があった意見への対応状況**

以前より、法政経学部、文学部双方の学生から無線 LAN の使える講義室を増やしてほしいという要望があったが、予算やセキュリティの関係で自由に設置することが難しかった。今年度の懇談会で、学生から直接、学長に要望を伝えることができた。

文学部棟 1 階 101、102、103 講義室に無線 LAN アクセスポイントの配線工事が終了しており、統合情報センターによる機器の設置を年度内に行う予定である。

同時利用想定人数は各講義室の収容人数を想定しており、講義で学生がパソコンを無線 LAN に接続しても授業に支障がないよう配慮した。

懇談会のまとめはすでに文学部ホームページに掲載している。無線 LAN 設置が完了した後、掲示板で学生へ周知する予定である。